

平和な沖縄

古堅小 四年 石川シエリ

「ふ、天間きち反対さ」

と、私の耳にその声が聞こえる。私は、この

反対さ、というのが大きいらしい。なぜか、いい

うと私の父はアメリカの人だ。よくきちにも

買物に行く。だから、私は反対!! といえな

い。たしかに、ふ、天間きちは、ひこうきが

りてくるからうるさい。私だって、

「なければいいのに」

って思う時はたくさんあるけど、反対!! っ

いうまで私はやらない。で、朝会の時など

ふ、天間きちの話をよくする。その時、私はむ

ねがきれそうないほ、いた。だから、本当は

この作文を書くのも、っらい。

私の親友が前、

「ふ、天間きち反対さ!!」

っ、マ、行進にいた。た、そうだ。その話を聞いた時、

と、てもこわかった。で、もし、しょうがなかつた。

私と沖縄の人の気持ちちはちがうから。っ、て、す

っと思っでいた。私は沖縄の人の心と少しか  
わった心がある。でも、たまには、  
「沖縄の人の気持ちを考えよう。」  
っと思ったこともなん度もあっただ。しかし、  
それをするのはできなかつた。でもそんな私  
をしっでいなから、友達は、ささえてくれた。  
その人に感しや、感しやだ!!  
四年生になっで、平和学習でたくさんこの  
とを学んだ。どうして戦争をしたのだろうか。  
どうして、だれもとめる人がいなかっただ。  
ろう。私がもし、あの時代に生まれていたら、  
とめることはできただろうか。みんなで話し  
合っで考えたことは、外国人がわるいのでは  
なく、その戦争をはじめめようと決めた人がわ  
るいと知りました。その戦争をした時代がわ  
るいのかな。自分のお父さんがアメリカ人だ  
から自分をせめるな。とおしえてくれた。そ  
の話しを聞たとき私は安心した。みんな仲良  
くなればいいのだ。

その戦争は、読谷村のとぐちの海の方から

ぎよらいのあるこうげきがあつたそうだが、つ  
 まり、古堅小学校の近くだ。きつとつらかつ  
 ただろう。食べ物もなかつたし、あの時に  
 自分がいたら、自分がいたら、  
 た。たきたてのゴハンを食べさせられた。た。  
 でも、できない。それはつらいことだ。その  
 ため、たくさんの人がこの世をさつた。もし、  
 戦争がなければ、人がたくさんこの世をさる  
 ことはなかつた。  
 だから、この世に平和をいのつて、平和な  
 沖繩を作ろう!! もしかしたら、月桃の花の歌  
 が沖繩を守っている。もう戦争はおこらない。  
 そう人を悲しませることは、したくない!! お  
 いちゃん、おばあちゃん、いきでいてくれ  
 てありがとう。命をありがとう!!  
 私に今できること。自分にいしんをもつて  
 生きること。いろんな国の友達や今のクラス  
 の友達と、仲良くすること。もつともつと  
 争のことを知ること。戦争でなくなつた人の  
 分まで、せい、い、つ、ばい、生きたい。